

平成 28 年度 第 7 回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成 29 年 1 月 31 日（火）

9 時 30 分～12 時 00 分

場所：三重県勤労者福祉会館 6 階 研修室

1. 開 会

2. 主催者挨拶

3. 議 事

金剛川水系の整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- ・ 松阪市の下水道（雨水）計画 1/10 に対して、河川整備の目標が 1/5 であるため、内水被害軽減の対策を十分検討する必要がある。
- ・ 「禊の碑」は旧齋宮街道沿いにあるため再度確認し、整備計画の資料に金剛川の歴史的な重要性を明記すること。
- ・ 内水被害の状況について、水系の上流や準用区間での説明をしているが、整備計画における対策は下流部の国道 23 号付近であるため、その付近の被災・被害状況も追加いただきたい。
- ・ 整備計画の実施によりどれくらいの浸水被害が軽減するのか、その整備効果をきちんと説明する必要がある。
- ・ 河川の計画流量は内水ポンプの計画排水量を見込んだ流量であり、ポンプが完成すれば内水浸水被害は一定解消されると考えていることについても説明資料に加えること。

井戸川水系の整備計画について説明をし、次のような意見をいただいた。

- ・ 自然環境は常に変動するため、環境への配慮は計画策定時の情報のみで判断せず、工事実施時に対象箇所を調べるなどの確認手順が必要である。
- ・ 除草においても一律に行うのではなく適切な知識をもって行うなど、植生環境へ配慮をして工事を実施して欲しい。
- ・ 整備計画（原案）の超過洪水への対応については紀伊半島大水害の被災も踏まえて、監視体制の整備等、より具体的に記載する方がよい。
- ・ 整備計画（原案）では生物相の配慮内容が明確に記載されていない。繁殖の時期、餌場の状況などが重要でありそれぞれの生き物によって異なるので、もう少し具体的に配慮事項を記載いただきたい。
- ・ L2 津波による浸水想定も示されていることから、「整備途上段階および超過洪水への対策」について L2 津波対策も記載した方がよい。
- ・ 生物相のリストについて、調査の出典も踏まえ具体的に記載すること。
- ・ 哺乳類の重要種は確認されていないとなっているが、熊野はニホンカモシカの生息域で

あるため確認すること。

熊野川圏域の整備計画についてこれまでの経緯を今後の予定を説明をし、次のような意見をいただいた。

- ニホンカモシカは国指定の天然記念物であり特別調査等を行っているので、教育委員会の文化財担当課へ確認すること。また鈴鹿の山地に特別保護地域があるため、他河川の整備計画を立てる際には注意すること。
- 熊野川下流域は森林が迫っており、クマタカが生息する可能性がある。クマタカは工事の騒音等が繁殖に影響を及ぼすと言われているため、配慮が必要である。
- 河道掘削により流れに変化が生じる可能性があるため、用水への影響については掘削直後のみでなく、その後の経過観察とフォローが必要である。
- 植生については重要種のみでなく、ソハヤキ要素と言われる熊野地域の特性を表す固有種を含めて整理した方がよい。

4. 閉 会